

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年十二月度 入選句（投稿総数二千四百九十二句・一般投句数五百七十六句）

特選

集合の時間 念押し紅葉寺 京都府宇治市 中村 広美

バスツアーのガイドさんが口頭だけでなく用紙に集合時間を書いて念を押す。それでも時間に間に合わない人が何故かいる。
紅葉のみごときに時を忘れる人、混雑していてトイレに時間がかかった人、迷子になった人などいろいろだ。私もバスが分からず、うろろうろして遅れたことがある。
思わず苦笑してしまう句。

噓して鬼に見つかるとかくれんぼ 三重県四日市 藤田 勝民

「マーフィーの法則」を思い出した。「人は大事な時に失敗する」である。緊張すると思わぬ変化が身体に生じる。咳払いやくしゃみがそれで、ある程度抑えることは出来るがわずかな音は出てしまう。かくれんぼで鬼が近付くと緊張し失敗してしまうのであろう。
微苦笑の句。

近習は菊も控へめ菊人形 養老郡養老町 田中 紫香

主君（主役）の側近くに仕える者（脇役）は、主君より目立つのは良くない。当然である。それで菊の数も色も控え目にしてある。
俳句は誰も見ている気付いているのだが、それを言葉に表現しないことを詠んだときに、そうだそうだと共感を呼ぶ。
微笑する句。

秀逸

姿勢良き雄鹿に出会ふ夜明かな	不破郡垂井町	北村 廣美
膝折りて菊師花替ふ人形展	埼玉県川口市	大沢 きみい
名水で研ぎし新米炊き上がる	福井県敦賀市	山田 美千代
小走りの袴を摺む七五三	東京都新宿区	花澤 ちいこ
紅すこしつけて施設の紅葉狩	大垣市	渡辺 智子
あらためて千木を仰ぎて神迎へ	大垣市	伊藤 英司
山茶花のつぶやくようにこぼれつぐ	大垣市	宮脇 和子
掃けばまた声掛くやうに柿落葉	大阪府堺市	椋本 望生

入選

掬うたび光こぼれる今年米
 寛かに伸びびする猫や秋入日
 あら汁の椀の温もり冬に入る
 指葉して秋風を聞いてをり
 黄落や灯明ひとつ古刹の間
 障子貼る明るきあすがあるやうに
 折紙のペンギン連れて日向ぼこ
 戀といふ文字見つけたり漱石忌
 石段を埋めて落葉の行き場なし
 一木の散るをこらへて冬に入る

大垣市 大杉 すみゑ
 不破郡垂井町 澤島 精次
 大垣市 早筈 千恵子
 東京都世田谷区 関戸 信治
 不破郡垂井町 小坂 久美子
 揖斐郡大野町 藤田 涼子
 大垣市 渡辺 智子
 大垣市 姿 婆
 大垣市 仁村 光生
 大垣市 佐藤 すみ子

入選

小春日や折鶴となる包み紙
 石仏へ軽くお辞儀や大根下げ
 小春日やひらがなだけのたよりくる
 水汲みの先客ひとり冬紅葉
 浮く雲の舟のかたちに神の旅
 あの窓は父の病室 冬夕焼
 繰り返す昭和の話おでん酒
 ユトリロの銀杏落ち葉を郵便夫
 一夜城眼下の街の冬木立
 航跡の一筋白く行く秋ぞ

大垣市 傍島 隆
 大垣市 鶴田 信子
 大垣市 秋山 くに子
 羽島郡岐南町 東垣外 かなな
 大垣市 村田 通夫
 栃木県那須塩原市 垣内 孝雄
 兵庫県神戸市 岸下 庄二
 静岡県藤枝市 山本 紫苑
 三重県鈴鹿市 松井 政典
 大垣市 村瀬 佐智子

選者吟

ウイルスよ我等にあるぞ冬至粥

武直